

# 平成29年度 事務事業点検評価報告書

平成 30 年 8 月

舞鶴市教育委員会

## 目 次

1	事務事業の点検評価の趣旨	1
2	点検評価の概要	1
3	各事業の評価	3
4	教育委員会活動の概要	15

## 1 事務事業の点検評価の趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について評価委員による点検及び評価を行い、その結果について公表しなければならないことと定められています。

この度、平成 29 年度に執行した事務事業について、評価委員による点検及び評価を行いました。

この結果を踏まえ、事業の必要性、有効性、効率性の検討を行い、今後より一層充実した事業の推進に努めてまいります。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」 (抜粋)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 2 点検評価の概要

舞鶴市教育委員会の権限に属する平成 29 年度の主な事務事業について、事業の目的、内容、成果等について評価委員が下記の評価の視点に基づき、評価を行ったものです。

### (1) 実施日

平成 30 年 7 月 27 日 (金)

### (2) 評価委員

(敬称略)

所 属 団 体 等	氏 名
高等教育機関代表 独立行政法人 国立高等専門学校機構 舞鶴工業高等専門学校 校長	内海 康雄
学 識 経 験 者 元舞鶴市立中学校長	青木 信一
学 識 経 験 者 元舞鶴市立小学校長	齋藤 紀子

### (3) 点検評価事業

No	事業名	担当課
1	小中一貫教育推進事業費	教育企画課
2	夢チャレンジサポート事業費	学校教育課
3	特色ある教育活動支援事業費補助金（小・中学校）	
4	特別支援教育支援員設置経費（小・中学校）	
5	英語指導助手（AET）設置経費	
6	いじめ・不登校対策経費	
7	学校給食運営経費（小・中学校）	
8	教員長期派遣研修事業費	
9	施設整備事業費（小・中学校）	
10	校舎等改修事業費（小・中学校）	
11	乳幼児教育ビジョン推進事業費	幼稚園・保育所課

### (4) 評価の方法

#### ① 評価の視点

点検評価では、各事業の評価を行うにあたり、次の視点で評価委員に考察、評価を行っていただきました。

区分	視点
必要性	市民ニーズや社会情勢に適合しているか。市が事業を担う必要があるか。
有効性	事業目的に照らして、効果が現れているか。
効率性	実施方法などについて成果に見合ったコストになっているか。

#### ② 評価判断基準

評価は「必要性」「有効性」「効率性」について、各評価委員に次のとおり5段階で評価いただき、その平均を点数化しました。

	5	4	3	2	1
必要性	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
有効性					
効率性					

### 3 各事業の評価

教育委員会の事務事業の点検評価シート(平成29年度事業)

事務事業名	小中一貫教育推進事業費	担当課	教育企画課	事業No	1
事業費 (H29決算)	6,850 千円	財源内訳	一般財源	6,850 千円	
			国府補助金等	0 千円	
教育振興 大綱の 該当項目	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進</li> <li>2 子どもを育てる教育環境の充実</li> <li>3 ふるさとを愛する教育の推進</li> <li>4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実</li> <li>5 心豊かな生涯学習の推進</li> </ol> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">切れ目ない教育の推進</div>				
事業目的	義務教育9年間を連続した期間と捉え、児童生徒の発達の段階に応じた一貫性のある学習指導・生徒指導を行うとともに、教職員や児童生徒が連携・交流を深めることにより、小学校と中学校が協働して系統的・継続的な教育を推進することで、子どもの学力定着と学校生活への適応(中1ギャップの解消)を目指す。				
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 市内7中学校区のうち4中学校区をモデル校区に指定し、以下の支援を実施。 (導入実績:28年度 城北・加佐、29年度 青葉・和田) ・2名のコーディネーター(指導主事)による指導・助言 ・小小・小中連携事業に伴う移動手段(バス等)の手配 ・モデル校区リーフレットの作成、取組状況の発信(ホームページ、ニュースレター)他</li> <li>② 舞鶴市版の標準カリキュラムを改定(小学校の道徳の教科化)</li> <li>③ 30年度の全市導入に向け未導入の3中学校区で導入準備を進める。</li> </ol>				
当該年度の 取組成果 達成状況	①②については、計画どおりに実施することができた。 ③については、未導入の白糸・城南・若浦中学校区において導入に向けた保護者・地域説明会を開催した。				
課題	小中一貫教育の教育的効果が目に見える形で現れるよう、導入校区における成果や課題を把握・整理し取組を改善していく必要がある。				
今後の 方向性	平成30年度からの全市導入を目指す。全市導入後も小中一貫教育の取組が形骸化することがないように児童生徒・学校・地域の実情等を踏まえながら、市教育委員会としてサポート体制の充実や取組の改善を進めていく。				
評価委員による 事業の評価	必要性	評価点数	5.0		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の将来に向けて適切な取組である。</li> <li>・義務教育のさらなる発展のために重要な事業である。</li> <li>・児童・生徒・保護者の意向を調査し、事業を深化することが大切。</li> <li>・中一ギャップの解消や学力の充実・向上など、本市の教育課題解決に向けた施策として必要である。</li> </ul>			
	有効性	評価点数	4.0		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートが効果的である。</li> <li>・小学生が中学校の見学・体験をもとに、良しとしているもの6割。保護者も不安解消に役立つとしたものが6割あり評価できる。</li> <li>・常に広く市民に活動内容を伝えることも重要。</li> <li>・児童・生徒の意識や意欲に良い変化が見られる部分もあり、継続した取組を充実させる。</li> </ul>			
	効率性	評価点数	4.0		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・数値目標が既にあるので見える様にするが良い。</li> <li>・全市導入後、マンネリ化の恐れあり。教師の研鑽が重要。</li> <li>・新活動内容については(国府等からの)補助金などでの支援も重要。</li> <li>・中長期の取組としての成果を期待して、ねらいを明確にした実践を積み上げていくことが必要。</li> </ul>			

教育委員会の事務事業の点検評価シート(平成29年度事業)

事務事業名	夢チャレンジサポート事業費	担当課	学校教育課	事業No	2
事業費 (H29決算)	24,386 千円	財源内訳	一般財源 国府補助金等	14,037 千円 10,349 千円	
教育振興 大綱の 該当項目	<p>1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進 2 子どもを育てる教育環境の充実 3 ふるさとを愛する教育の推進 4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実 5 心豊かな生涯学習の推進</p> <p>・個性を伸ばし夢をかなえる学校教育の充実 ・ふるさと学習の推進</p>				
事業目的	子どもたちの夢を育み、その夢の実現を支え、将来、社会に貢献できる人材に育成するために、学力向上に向けた支援を行う。				
事業内容	<p>1. 学力チャレンジ…生徒の学力状況を把握し、学習改善につなげるとともに生徒が自分の学力を把握し進路実現に活かすため、中学校で各学年統一の学力診断テストを実施。</p> <p>2. 検定チャレンジ…舞鶴在住の中学生を対象に英語検定料を補助。(4・5級は1/2補助、3級以上は全額補助)</p> <p>3. 夢講演会…生徒が将来の夢を考えるきっかけとするため外部講師による講演会を実施。</p> <p>4. 夢サポート事業…各学校の学力向上、教職員の資質の向上等の取組や学校風土、地域風土に応じた特色のある教育活動を支援。</p> <p>5. 学習サポーターの配置…学力診断テストを活かした学力・学習状況の把握・分析に基づき、個に応じた効果的な学習指導を図るため、教員OB等による支援員(サポーター)を配置し、きめ細かな対応を行う。</p> <p>6. 学習用プリント教材…配信サービスを利用し、個々の学習課題に応じたプリントを作成。</p>				
当該年度の 取組成果 達成状況	<p>1. 学力チャレンジ…舞鶴市統一学力診断テスト(夢チャレンジテスト・5教科) 市内7中学校 全学年 2,261名が受験 ※順位の開示を希望した保護者 … 84.3%</p> <p>2. 検定チャレンジ…英語検定(6月、10月、1月) 計 708名受験 &lt;合格者&gt; 2級 2名、準2級 21名、3級177名、4級201名、5級139名、計 540名</p> <p>3. 夢講演会…全校実施 9講演</p> <p>4. 夢サポート事業…各学校ごとに特色ある取組を実施</p> <p>5. 学習サポーターの配置…各中学校に支援員(サポーター)13名を配置</p> <p>6. 学習用プリント教材…個々の学力課題に応じたプリントを作成し、学力の向上を図った。</p>				
課題	全ての生徒が将来の夢や目標を持つとともに、その実現へ向け、学習意欲を高めることが必要				
今後の 方向性	子どもたちの夢を育み、その夢の実現を支えるため、引き続き、各事業を実施していくとともに、舞鶴市統一学力診断テストにより学力定着状況を把握し、指導改善に活かしていく。				
評価委員による 事業の評価	必要性	評価点数	5.0		
		<p>・地域で夢を持たせ、育てることは重要である。</p> <p>・中学生に夢と希望を持たせる進路指導として重要。</p> <p>・外部講師の情報交換など、今必要とされる講演の出来る人材を幅広く選択することが大切。</p> <p>・子どもたちが人生を自ら切り開いていく力を身に付けるために必要な事業である。</p> <p>夢を持たせることと学力の向上を図ることの両面が重要視されている。</p>			
	有効性	評価点数	4.3		
		<p>・(夢講演会については)回数に限度はあるが、幅広く講師を選んでほしい。</p> <p>・英検への挑戦心の育成も学習意欲向上に重要。</p> <p>・学習効果向上のため支援員の配置は大切。</p> <p>・検定チャレンジは数値で効果が明確になっている。</p> <p>・他の事業も継続・充実により成果を期待する。</p>			
	効率性	評価点数	4.0		
		<p>・学力、検定のチャレンジのほか、定性的でも良いので効果を説明できるようにしてほしい。</p> <p>・補助金等を活用し、より一層の財源の確保に努めること。</p> <p>・学習サポーターに対する予算増が人材確保にも大切。</p> <p>・学力向上については個に応じたきめ細かな指導の継続が必要であり、指導の工夫や学習サポーターの有効活用などで一層成果をあげてほしい。</p>			

教育委員会の事務事業の点検評価シート(平成29年度事業)

事務事業名	特色ある教育活動支援事業費補助金 (小・中学校)	担当課	学校教育課	事業No	3
事業費 (H29決算)	6,997 千円	財源内訳	一般財源	6,283 千円	
			国府補助金等	714 千円	
教育振興 大綱の 該当項目	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進</li> <li>2 子どもを育てる教育環境の充実</li> <li><b>3</b> ふるさとを愛する教育の推進</li> <li>4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実</li> <li>5 心豊かな生涯学習の推進</li> </ol> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">ふるさと学習の推進</div>				
事業目的	地域の方々などの協力のもと、地域に根ざした特色ある学校づくりや教育活動を推進するための支援を行う。 豊かな体験活動を実施し、「生きる力」の核となる「豊かな人間性」を育てるとともに、本市の特色ある歴史や豊かな自然について学び、「ふるさと舞鶴」への愛着を育む。				
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育活動支援事業 地域の方々などの協力による特色ある教育活動を支援。 小学校6年生の社会科学習で引揚記念館を見学する「ふるさと学習」を実施。</li> <li>2. 地域ふれあい体験活動事業 職場体験(小学4年生、中学2年生)、世代間交流、福祉職場体験、農業体験、伝統的文化活動など通年の教育活動として体験活動を実施。</li> </ol>				
当該年度の 取組成果 達成状況	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育活動支援事業 総合的な学習の時間、体験活動、野外活動、クラブ活動、部活動等において、地域の方々との協力のもと特色ある教育活動の支援を実施した。</li> <li>2. 地域ふれあい体験活動事業 地域や学校の実態に応じて創意工夫し、職場体験(小学校では仕事についての学習や体験活動を含む)、農業体験など通年の教育活動として体験活動を実施した。 小・中学校での地域人材等による取組や、全校で実施の小学5年生の野外活動、6年生の「引揚の歴史を学習するふるさと学習」、中学2年生の職場体験活動など、特色ある教育活動を通して、ふるさと舞鶴を愛するふるさと学習の推進を行うとともに、豊かな人間性の育成を図った。</li> </ol>				
課題	ふるさと学習に協力いただける幅広い地域人材の発掘。				
今後の 方向性	「豊かな人間性」を育てる「心の教育」の充実を図るため、引き続き、学校現場のニーズに応え、特色ある教育活動を支援していく。				
評価委員による 事業の評価	必要性	評価点数	4.7		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の特色に触れて理解を深めることができる。</li> <li>・ふるさと学習は豊かな心を育てる意義ある授業である。</li> <li>・小学校では地域の生活に密着した活動が展開され、中学校では奉仕活動や職場体験など広い視野での活動で、今後の活動に期待。</li> <li>・様々な体験活動を通して地域の方々とのふれあい「ふるさと舞鶴」への理解を深める意義ある事業である。</li> </ul>			
	有効性	評価点数	4.7		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の事業、例えば「夢チャレンジサポート事業」などとの関係を整理すると共同できることがあるかもしれない。</li> <li>・市内には文化遺産や学べるものが多くあり、「ふるさと舞鶴」への愛と関心の高まりに効果的。</li> <li>・「ふるさと学習」から自分たちや学校がどのように守られているかを見直し、地域の人々の支援への感謝の心の育成につながる。</li> <li>・子どもたちは体験活動から多くのことを感じ、学ぶことができる。小学4年生での職場体験は早期から夢を考える機会にもなり有意義な取組である。</li> </ul>			
	効率性	評価点数	3.7		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・お礼の手紙を書いているとのことだが、学校へ協力者のプレートを置くなど接点を広げてはどうか。</li> <li>・小中学生とも直接地域や職場での活動に触れ、大きな体験と感動を受ける良き経験の場となっている。</li> <li>・職場体験の協力者や活動を支えていただく地域人材の確保などで取組を充実させていく必要がある。</li> </ul>			



教育委員会の事務事業の点検評価シート(平成29年度事業)

事務事業名	特別支援教育支援員設置経費 (小・中学校)	担当課	学校教育課	事業No	4
事業費 (H29決算)	31,437 千円	財源内訳	一般財源 国府補助金等	31,437 千円 0 千円	
教育振興 大綱の 該当項目	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進</li> <li>2 子どもを育てる教育環境の充実</li> <li>3 ふるさとを愛する教育の推進</li> <li>4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実</li> <li>5 心豊かな生涯学習の推進</li> </ol> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">個性を伸ばし夢をかなえる学校教育の充実</div>				
事業目的	通常学級、特別支援学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童・生徒に対し、適切な対応を行うため、各小中学校に特別支援教育支援員を配置する。				
事業内容	支援員の配置 ・小学校15校、29名 ・中学校 6校、11名				
今年度の 取組成果 達成状況	年度当初、特別な教育的支援を必要とする児童生徒は、小学校は18校に380名、中学校は7校に 234名が在籍。これら児童生徒に適切に対応するため、小学校15校に29名、中学校6校に11名の特別支援教育支援員を配置。 通常学級、特別支援学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒の個々の教育的ニーズに応える特別支援教育の充実に努めた。				
課題	特別な教育的支援を必要とする児童生徒が年々増加傾向にある中、支援員の確保が課題となっている。				
今後の 方向性	今後とも、通常学級、特別支援学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対して、支援員を配置し、適切な教育(支援)を推進していく。				
評価委員による 事業の評価	必要性	評価点数	5.0		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象となる児童・生徒は一定数いるので必要な事業である。</li> <li>・特別な教育支援を必要とする児童・生徒が年々増える傾向にあり、今後も支援員の配置と確保が重要である。</li> <li>・特別な教育的支援を必要とする児童・生徒にとって支援員の配置は個々の教育活動を支える必要な施策である。</li> </ul>			
	有効性	評価点数	4.3		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの経験とノウハウを生かせる体制となっている。</li> <li>・子どもたちが安心して就学できる場の確保が必要である。</li> <li>・支援員の指導力の向上と担当教師とのコミュニケーションも大きな課題。</li> <li>・児童・生徒が安心して学べる環境整備として学習意欲の向上や進路の実現等につながっている。</li> </ul>			
	効率性	評価点数	4.0		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援人員の確保が必要だが、市内の種々の学校との情報共有も可能である。</li> <li>・支援員の適正配置と確保には現在以上に予算増も必要。</li> <li>・担任や支援員が連携を深め、個々の教育的ニーズに応える支援の充実が求められる。</li> </ul>			

教育委員会の事務事業の点検評価シート(平成29年度事業)

事務事業名	英語指導助手(AET)設置経費	担当課	学校教育課	事業No	5
事業費 (H29決算)	31,662 千円	財源内訳	一般財源 国府補助金等	15,832 千円 15,830 千円	
教育振興 大綱の 該当項目	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進</li> <li>2 子どもを育てる教育環境の充実</li> <li><b>3</b> ふるさとを愛する教育の推進</li> <li>4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実</li> <li>5 心豊かな生涯学習の推進</li> </ol> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     グローバル化社会に対応する教育の推進                 </div>				
事業目的	今後、ますます進展する国際社会を豊かに生き抜くことができる児童生徒を育成するため、小中学校の各段階を通じて英語教育を充実させ、国際理解教育を推進する。 また、平成25年度から小学校3年生以上に拡大された英語教育において、小学校中学年ではコミュニケーション能力の素地を養い、高学年では初歩的な英語の運用能力を養い、中学校では身近な話題についての理解や簡単な情報交換、表現ができる能力を養うことを目標に、英語指導助手の配置を行い英語力向上を目指す。				
事業内容	小学校3～6年生を対象とした英語活動及び中学校英語科の授業において、英語指導助手を配置 ・英語授業の補助(発音指導・ヒアリング指導等)・英語教材作成の補助 ・英語担当教員に対する研修・小学校英語活動・国際理解教育 他				
今年度の取組成果 達成状況	英語指導助手7名を配置し、外国人から直接生きた英語を学ぶとともに、その出身国の状況等を理解する上で大変意義のある英語教育の充実並びに国際理解教育の一層の推進が図れた。(学校訪問 延べ1,352回)				
課題	できるだけ早い時期から「英語」の発声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養い、中学校卒業段階で英検3級程度の英語力を身につけさせるという文科省の目標に近付くため、英語担当教員の指導力向上や人的配置など事業の充実が求められる。				
今後の方向性	国において、平成32年度から小学校5・6年生の英語の教科化が予定されており、英語教育の充実と国際理解を推進していく必要がある。				
評価委員による 事業の評価	必要性	評価点数	4.3		
		・今後の英語教育の充実のために必要である。 ・国際社会に生きる子どもたちのために必要。 ・小学生時期で英語、異文化に触れることが重要。 ・グローバル化社会において、児童・生徒が身近に外国人と接し、言葉や文化を学ぶ環境づくりは必要である。			
	有効性	評価点数	4.0		
		・英語の授業そのものとも考えられる。本来の授業で行う際の支援である。 ・初期段階では外国語学習というよりも異文化と触れる機会とする程度の取組で、英語学習が取り入れられると良い。 ・外国人から生きた英語を学ぶことに意義がある。 ・英検指導助手が給食時間や学校行事等にも参加することで、学校生活全体において児童・生徒の学習意欲を高めている。			
	効率性	評価点数	4.0		
		・ネイティブの指導を組み込むことは効率的である。 ・担当教員の指導力の向上と研修の重視。 ・英検へチャレンジできる生徒の育成。 ・読み英語から話せる英語へ。 ・英語指導助手を活用してさらなる成果の向上と小学校5・6年生の英語の教科化に向けた活用の在り方の研究が求められる。			

教育委員会の事務事業の点検評価シート(平成29年度事業)

事務事業名	いじめ・不登校対策経費	担当課	学校教育課	事業No	6
事業費 (H29決算)	18,457 千円	財源内訳	一般財源 国府補助金等	15,680 千円 2,777 千円	
教育振興 大綱の 該当項目	<p>1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進</p> <p>2 子どもを育てる教育環境の充実</p> <p>3 ふるさとを愛する教育の推進</p> <p>4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実</p> <p>5 心豊かな生涯学習の推進</p> <p>・個性を伸ばし夢をかなえる学校教育の充実</p> <p>・心身ともに健全な子どもの育成</p>				
事業目的	<p>心理的要因等により不登校となっている児童生徒に対し、学校生活への復帰と社会的自立を支援するため、学校と教育支援センター(名称:明日葉(あしたば))が連携し、集団生活への適応や情緒の安定、学力の補充、基本的生活習慣の改善等のための相談・適応指導を行う。</p> <p>また、いじめ問題については、いじめ防止、早期発見、早期対応を図るとともに、いじめ相談室を併設し、いじめ相談ダイヤル等により、きめ細かな相談・対応を行う。(平成16年度に「教育支援センター」を設置、平成25年度に「いじめ相談室」を併設)</p>				
事業内容	<p>1. 教育支援センター(明日葉)の概要</p> <p>(1) 事業内容 適応指導、学習指導、訪問指導、教育相談、いじめ相談等</p> <p>(2) 場 所 メディカルセンター3階</p> <p>(3) 子ども相談員 3名、臨床心理士 1名</p> <p>2. チャレンジアウトドアライフ事業の実施</p> <p>不登校児童生徒を対象とした野外体験活動の実施</p> <p>3. いじめ相談室の概要</p> <p>いじめ相談員2名 いじめ相談ダイヤル開設</p>				
当該年度の 取組成果 達成状況	<p>1. 教育支援センターでの適応指導、学習指導、訪問支援、教育相談等の取組</p> <p>来所相談(634件)電話相談(1,345件)家庭訪問(288件)訪問支援(34件)はがき支援(148件)</p> <p>2. チャレンジアウトドアライフの実施(延べ 20名参加)</p> <p>京都太秦映画村での野外活動、グリーンスポーツセンター・若狭湾青少年自然の家での宿泊野外活動</p> <p>長期欠席している児童生徒が学校復帰や高校進学に向け、通級し目標を達成するなど、「明日葉」に通級等している児童生徒16名(小学5名、中学11名)のうち、学校へ復帰した児童生徒が15名(小学校4名、中学校11名)となった。</p> <p>3. いじめ相談室の相談状況</p> <p>電話相談53件、来所相談13件</p>				
課題	<p>人間関係づくりに時間を要し、また、個別の状況に応じた対応が必要なため、経験豊かな相談員が児童生徒と信頼関係を築く中で取り組む必要がある。</p>				
今後の 方向性	<p>明日葉やいじめ相談室の活動を通して、不登校の解決といじめ相談の充実を目指す。また、学校でいじめや嫌なことがあっても先生や友だちに相談できない子どもたちや、子どものことで悩んでいる保護者に対し、1人で悩まずに電話相談できる体制の充実を図る。</p>				
評価委員による 事業の評価	必要性	評価点数	5.0		
		<p>・人権についての意識を共有する上で重要である。</p> <p>・いじめ、不登校児童・生徒は依然増加傾向が目立ち、原因、内容とも複雑多岐であり、行政・学校・家庭のより密接な連携と真剣な取組が重要。</p> <p>・不登校の解決やいじめ問題への対応は重要な課題であり、その対策として大事な施策。</p>			
	有効性	評価点数	4.3		
		<p>・野外体験活動において、各自の役割に応じて取り組むことは有効である。</p> <p>・今後も事業の充実が必要。</p> <p>・いじめ問題では常時学校と交流できる指導員の配置が必要。</p> <p>・様々な指導・支援により、明日葉の通級児童・生徒の多くが学校復帰でき、大きな成果となっている。今後も児童・生徒が行きたいと感じる魅力ある学校づくりと共に、いじめ・不登校への対応が必要である。</p>			
	効率性	評価点数	4.0		
		<p>・相談員の資質向上と行動力も大切。</p> <p>・不登校対策で府認定のフリースクール(聖母の小さな学校)との連携・交流も大切。</p> <p>・不登校の解決に向けては児童・生徒と指導者との人間関係づくりから始めるなど、相当時間を要する取組であり、今後も継続した体制の整備が必要である。</p>			

教育委員会の事務事業の点検評価シート(平成29年度事業)

事務事業名	学校給食運営経費 (小・中学校)	担当課	学校教育課	事業No	7
事業費 (H29決算)	404,283 千円	財源内訳	一般財源	404,283 千円	
			国府補助金等	0 千円	
教育振興 大綱の 該当項目	<p>1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進</p> <p>2 子どもを育てる教育環境の充実</p> <p>3 ふるさとを愛する教育の推進</p> <p>4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実</p> <p>5 心豊かな生涯学習の推進</p> <p>心身ともに健全な子どもの育成</p>				
事業目的	安心・安全で栄養バランスのとれた魅力ある給食を全小・中学校で実施する。				
事業内容	<p>1. 小学校全18校に栄養士を配置し、自校調理方式により給食を実施</p> <p>2. 中学校全7校でスクールランチ方式による給食を実施</p> <p>3. 地場産野菜、舞鶴産水産物・舞鶴産コシヒカリなど、地元産の安全な食材を使用</p> <p>4. 食育の推進</p>				
今年度の 取組成果 達成状況	<p>【小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調理食数 延883,427食(H29.5.1児童数 4,423人他)</li> <li>地場産物(万願寺甘とう、舞鶴のさかな等)についての食育授業</li> <li>ウズベキスタン料理を給食に取り入れ、舞鶴との関わりを学習</li> <li>食物アレルギー児童(176名)への対応</li> </ul> <p>【中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調理食数 延427,848食(H29.5.1生徒数 2,264人他)</li> <li>教育委員会の栄養士が献立を作成</li> <li>食物アレルギー生徒(75名)への対応</li> <li>「食育だより」を月1回発行し、各校へ配布(ホームページで公表)</li> <li>アンケート実施</li> </ul>				
課題	年々、増加するアレルギー児童・生徒の除去食等の確実な対応と中学校での食育指導の充実が必要である。				
今後の 方向性	今後とも、引き続き、安心・安全で地産地消を積極的に取り入れた魅力のある給食の提供に努める。				
評価委員による 事業の評価	必要性	評価点数	5.0		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>食育を地域産品を用いて行うことは意義がある。</li> <li>食育と食事の大切さを伝えるため重要。</li> <li>地産・地消の食育は大切。</li> <li>最近の家庭状況の変化もあり、栄養バランスのとれた給食の実施は、児童・生徒のために大変大事なことである。</li> </ul>			
	有効性	評価点数	4.7		
<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校のスクールランチについてはメニューなど改善の余地がある。</li> <li>アンケートによる給食改善は重要。</li> <li>「食育だより」、毎月の「献立表」送付など継続した活動が大切。</li> <li>食物アレルギーへの対応や献立の工夫など、細かな取組がなされている。食育指導の充実により、児童・生徒に食の大切さを浸透させてもらいたい。</li> </ul>					
効率性	評価点数	4.0			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>食べ残しを少なくする取組を進めてほしい。</li> <li>保護者の意識向上のため、給食参観の充実。</li> <li>中学校の給食改善については、出来る所から改善を。</li> <li>中学校への給食導入はまだ年数が浅いので、今後も食育指導の推進により効果的な実施になることを期待する。</li> </ul>				

教育委員会の事務事業の点検評価シート(平成29年度事業)

事務事業名	教員長期派遣研修事業費	担当課	学校教育課	事業No	8
事業費 (H29決算)	6,415 千円	財源内訳	一般財源 国府補助金等	6,415 千円 0 千円	
教育振興 大綱の 該当項目	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進</li> <li><b>2</b> 子どもを育てる教育環境の充実</li> <li>3 ふるさとを愛する教育の推進</li> <li>4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実</li> <li>5 心豊かな生涯学習の推進</li> </ol> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     教師等の資質能力の向上                 </div>				
事業目的	中学校の教員を福井県教育委員会へ長期(1年間)派遣し、先進的な授業を学び、教員の授業力の向上を図る。 また、派遣終了後は、本市の指導的教員として教員全体の授業力向上に努めることにより、生徒の学力向上を図る。				
事業内容	中学校の教員1名を「全国学力・学習状況調査結果」で、全国トップレベルの福井県教育委員会へ1年間派遣し、先進的な授業方法等を学び、教員の授業力向上を図る。				
今年度の取組成果達成状況	中学校の教員1名を福井県勝山市立勝山中部中学校へ派遣し、1年間の研修を行った。 また、派遣教員から福井県における指導・授業・環境等研修内容について、3回の報告会のほか中学校教務主任会などで、報告を受けた。				
課題	派遣教員が1年間研修してきた成果を、どのように学校現場に組み入れ、教員の授業力向上、生徒の学力向上につなげていくか、学校と教育委員会が連携しながら、検討していくことが必要である。				
今後の方向性	派遣教員が研修してきた福井県の教育内容・仕組み等について、導入すべき又は充実すべき内容を取り入れ、本市教育の充実につなげ、生徒の学力向上をめざす。 なお、平成30年度からは、秋田県に教員を派遣し、福井県とは違う特徴的な取組等を研修している。				
評価委員による事業の評価	必要性	評価点数	4.3		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・他県の良い事例を参考にすることは必要である。</li> <li>・教師の指導力向上のため先進地に習うことは重要。</li> <li>・ぜひ継続してほしい。</li> <li>・教員が長期にわたり先進地で研修することは良策である。</li> </ul>			
	有効性	評価点数	3.7		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・派遣する教員数が増えていくと効果が拡大する。</li> <li>・一年間の派遣は望ましいが、テーマ別に半年単位で複数派遣の方法も考察してはどうか。</li> <li>・研究会での報告も良いが、具体化し実践できる内容がほしい。</li> <li>・報告会等において研修成果を報告し、本市全体の学校に波及する方向が設定されている。今後の指導充実につなげてもらいたい。</li> </ul>				
	効率性	評価点数	3.7		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・得られたノウハウ等を普及すること、共有することを工夫してほしい。</li> <li>・府の補助金等、検討の余地あり。</li> <li>・教科別にも事業を広げてはどうか。</li> <li>・事業費に見合う成果とするために、1人の研修として終わらせることなく、多くの機会を活用して本市教育の充実に向けた学力向上となる取組を展開してもらいたい。</li> </ul>				

教育委員会の事務事業の点検評価シート(平成29年度事業)

事務事業名	施設整備事業費(小・中学校)	担当課	教育総務課	事業No	9
事業費 (H29決算)	131,698 千円	財源内訳	一般財源	63,398 千円	
			地方債	8,400 千円	
			国府補助金等	59,900 千円	
教育振興 大綱の 該当項目	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進</li> <li><b>2</b> 子どもを育てる教育環境の充実</li> <li>3 ふるさとを愛する教育の推進</li> <li>4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実</li> <li>5 心豊かな生涯学習の推進</li> </ol> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     学校等における教育環境の充実                 </div>				
事業目的	児童生徒の安全を守り、安心して豊かな教育環境を整備する。				
事業内容	老朽化した校舎や設備の改修、用途変更に対応した改修など、教育環境充実のための施設整備(主に部分的な修繕等)				
当該年度の 取組成果 達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校舎屋上防水改修工事(明倫小・倉梯第二小・城北中)</li> <li>・体育館屋根の塗装他修繕工事(志楽小・城北中)</li> <li>・冷暖房設備増設(倉梯第二小給食室・城南中通級指導教室)</li> <li>・安全点検・点検に伴う器具の更新等(防火シャッター点検・消火栓ホース取替・避難救助袋取替)</li> <li>・その他各校改修工事及び修繕(366件)</li> </ul>				
課題	今後経年劣化していく学校施設が増加するため、改修等に要する事業費の確保が必要である。				
今後の 方向性	舞鶴市全体の取組である市有建築物の点検マニュアルに沿って施設点検を行い、不具合箇所を早期発見することで、最小限のコストで健全な状態の維持に努める。				
評価委員による 事業の評価	必要性	評価点数	5.0		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物の耐用年数が100年となる中、大きな見直しが必要である。</li> <li>・教育環境の整備は必要。</li> <li>・事故の無い安全な学校であってほしい。</li> <li>・学習環境の整備は学力向上に活きる。</li> <li>・児童・生徒のために安心して安全な教育環境を整備する取組がなされている。</li> </ul>			
	有効性	評価点数	4.7		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育における特色ある取組と合わせて各方面の補助をいただくと、その取組と合わせて有効となる。</li> <li>・(生徒による)器物破損が減少したことは学校が落ち着いてきた一つの現れとして喜ばしい。</li> <li>・少子化傾向にはなるが、施設整備は重要。</li> <li>・限られた予算を十分に活用し、計画的に施設の整備が進められている。</li> </ul>			
	効率性	評価点数	4.0		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンクリートブロック塀への素早い対応をしていただいた。</li> <li>・地域、保護者の要望に沿える施設管理を。</li> <li>・避難所としての整備も必要。</li> <li>・今後も引き続き、安心・安全な環境整備を進めてほしい。</li> </ul>			

教育委員会の事務事業の点検評価シート(平成29年度事業)

事務事業名	校舎等改修事業費(小・中学校)	担当課	教育総務課	事業No	10
事業費 (H29決算)	313,406 千円	財源内訳	一般財源等	639 千円	
			地方債	247,400 千円	
			国府補助金等	65,367 千円	
教育振興大綱の該当項目	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進</li> <li><b>2</b> 子どもを育てる教育環境の充実</li> <li>3 ふるさとを愛する教育の推進</li> <li>4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実</li> <li>5 心豊かな生涯学習の推進</li> </ol> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     学校等における教育環境の充実                 </div>				
事業目的	児童生徒の安全を守り、安心して豊かな教育環境を整備する。				
事業内容	老朽化した校舎等の大規模なりニューアル工事（主に全体的な改修）				
当該年度の取組成果達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校舎の大規模改造工事(城南中学校(北舎))</li> <li>・体育館の大規模改造工事(倉梯第二小学校)</li> </ul>				
課題	今後経年劣化していく学校施設が増加するため、改修等に要する事業費の確保が必要である。				
今後の方向性	舞鶴市全体の取組である市有建築物の点検マニュアルに沿って施設点検を行い、不具合箇所を早期発見することで、最小限のコストで健全な状態の維持に努める。また、大規模な改修については、国の動向に合わせ、事業計画の見直しやより有利な財源の確保を検討しながら、遂行する。				
評価委員による事業の評価	必要性	評価点数	5.0		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・長寿命化に沿った対応が必要である。</li> <li>・耐震対策は早期に充実され市民の評価も高いが、避難所としての視点では至急充実する必要がある。</li> <li>・老朽化した校舎や体育館は、安心・安全な環境整備のために大規模な改修が必要である。</li> </ul>			
	有効性	評価点数	4.3		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全・安心の確保に役立っている。</li> <li>・児童・生徒・保護者からの要望の強いトイレの洋式化と各教室の冷房設備の充実など必要。</li> <li>・児童・生徒の教育活動のために環境が整えられている。</li> </ul>			
	効率性	評価点数	4.3		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネなど国の制度などの利用による事業量の確保も考えられる。</li> <li>・学校外周のブロック塀問題が注目されているが、常時危険場所の点検と補修など安全管理が重要。</li> <li>・予算を有効に使った大規模な改造・改修となっている。</li> </ul>			

教育委員会の事務事業の点検評価シート(平成29年度事業)

事務事業名	乳幼児教育ビジョン推進事業費	担当課	幼稚園・保育所課	事業No	11
事業費 (H29決算)	5,823 千円	財源内訳	一般財源 国府補助金等	276 千円 5,547 千円	
教育振興 大綱の 該当項目	<p>1 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進</p> <p>2 子どもを育てる教育環境の充実</p> <p>3 ふるさとを愛する教育の推進</p> <p>4 地域社会で支える教育と子育て支援の充実</p> <p>5 心豊かな生涯学習の推進</p> <p>・切れ目ない教育の推進 ・質の高い幼児教育の推進</p>				
事業目的	<p>「主体性を育む乳幼児教育の推進～みんなでつながり育む舞鶴の子ども～」を基本理念とする本市乳幼児教育ビジョンに基づき、0歳から就学前までの質の高い教育・保育の研究・実践を行うとともに、小学校教育との一貫した教育について調査・研究を行う。併せて、文部科学省委託の乳幼児教育の推進体制構築に係る調査研究・発表等を行うことにより、他市のモデルとなる幼児教育の推進を図る。</p>				
事業内容	<p>1. 乳幼児教育ビジョンの周知</p> <p>2. 乳幼児教育の質の向上研修</p> <p>3. 保幼小接続カリキュラム策定研究</p> <p>4. 乳幼児教育の推進体制構築のための調査研究</p>				
当該年度の 取組成果 達成状況	<p>1. 乳幼児教育ビジョンの周知 講演会・報告会 2回、FMまいづる出演 1回</p> <p>2. 乳幼児教育の質の向上研修 子どもを主体とした保育・カンファレンス 4回、グループ研修 4回、保幼小連携研修 3回、保幼小中連携研修会 1回、ニュースレター発行10回</p> <p>3. 保幼小接続カリキュラム策定研究 カリキュラム策定会議 4回</p> <p>4. 乳幼児教育の推進体制構築のための調査研究等 乳幼児教育の推進体制構築事業検討会議 2回、日本保育学会・日本保育学会近畿ブロック研究会等での発表 4回、雑誌記事掲載 2回、視察受入 8回</p>				
課題	<p>・策定したビジョンの普及</p> <p>・参加しやすい研修体制の構築</p> <p>・保育士確保に向けた取り組み</p>				
今後の 方向性	<p>文部科学省委託モデル事業の最終年度として、保育者・教員への研修事業の実施と参加促進策の研究、保幼小接続カリキュラムの策定、乳幼児教育の拠点となるセンターの設置研究、各施設・各分野の連携の推進・接続を図るコーディネーターの育成など、乳幼児教育の推進体制の構築について基本的方策をとりまとめるとともに、乳幼児教育ビジョンの保護者・市民にわかりやすく伝えるための情報発信をさらに強化する。</p>				
評価委員による 事業の評価	必要性	評価点数	5.0	<p>・私学が多い中でぜひ必要な事業である。</p> <p>・乳幼児教育推進は、大改革の時期に当たり重要課題である。</p> <p>・保護者に対しても乳幼児教育の進むべき方向性と各種調査・研究・活動・事業など紹介や説明が重要。</p> <p>・「舞鶴市乳幼児教育ビジョン」の策定により、市内の全幼稚園・保育所・保育園が教育の方向性を確認し、舞鶴の子どもたちを市全体で育てる乳幼児教育の取組が推進できる。</p>	
	有効性	評価点数	4.0	<p>・変わりつつある幼児教育にモデル事業として対応している。</p> <p>・本市の過半数を超える私立保育園・幼稚園に対して一方的にならず、きめ細かな対応と丁寧な説明が必要。</p> <p>・公開授業や保育、研修会等、様々な事業の実施により、教育や保育の充実に向けた取組が進んでいる。</p>	
	効率性	評価点数	4.0	<p>・拠点センターの設置へ向けて、活動の連続性を確保してほしい。</p> <p>・各園、保護者に積極的な広報と啓発が必要。</p> <p>・切れ目のない教育の推進には各関係機関の信頼感が重なって絆づくりができる。</p> <p>・文部科学省委託モデル事業として、予算を十分に活用した取組が展開されている。事業が終了しても、さらなる乳幼児教育の充実に取り組むことが大切である。</p>	



## **4 教育委員会活動の概要**

(1) 教育委員会の開催状況

平成 29 年度の定例教育委員会は原則として月 1 回、臨時教育委員会は必要に応じてそれぞれ下記のとおり開催しました。

- 定例教育委員会 12 回
- 臨時教育委員会 4 回

(2) 教育委員会審議等状況

平成 29 年度は下記の 29 件の議案について審議しました。

《教育委員会審議案件等一覧》

議案番号	審議事項	審議日
第 16 号議案	舞鶴市教育委員会職員の人事異動について（専決第 5 号）	H29. 4. 26 (定例会)
第 17 号議案	舞鶴市学校アドバイザーの委嘱について	H29. 5. 29 (定例会)
第 18 号議案	舞鶴市工業高等専門学校修学資金の貸与に関する条例制定の市議会 6 月定例会への提案について	
第 19 号議案	市議会 6 月定例会への補正予算案の提出について	
第 20 号議案	舞鶴市学校運営協議会規則の一部を改正する規則制定について	H29. 6. 23 (定例会)
第 21 号議案	学校運営協議会の設置及び委員の任命について	
第 22 号議案	舞鶴市社会教育委員の委嘱について	
第 23 号議案	平成 30 年度以降に使用する市立小学校用教科用図書の採択について	H29. 8. 9 (臨時)
第 24 号議案	「平成 28 年度事務事業点検評価」の結果について	H29. 8. 28 (定例会)
第 25 号議案	市議会 9 月定例会への補正予算案の提出について	
第 26 号議案	平成 30 年度教職員の人事異動について（専決第 7 号）	H29. 11. 27 (定例会)
第 27 号議案	市議会 12 月定例会への補正予算案の提出について	
第 28 号議案	舞鶴市立図書館条例の一部を改正する議案の市議会 12 月定例会への提案について	
第 29 号議案	舞鶴市教育長の給与等に関する条例の一部を改正する条例案の提案について（専決第 8 号）	H29. 12. 26 (定例会)
第 30 号議案	舞鶴市公民館条例施行規則の一部を改正する規則制定について	
第 31 号議案	舞鶴市指定文化財の指定について	
第 1 号議案	舞鶴市文化財保護委員の委嘱について（専決第 1 号）	H30. 1. 29 (定例会)
第 2 号議案	舞鶴市立図書館規則の一部を改正する規則制定について	
第 3 号議案	舞鶴市立図書館規則の一部を改正する規則制定について	H30. 2. 23 (定例会)
第 4 号議案	平成 30 年度舞鶴市一般会計の教育委員会の所掌に係る予算見積書の提出について	
第 5 号議案	舞鶴市立の小学校及び中学校の校長並びに教頭の任免について	H30. 2. 23 (臨時)
第 6 号議案	教職員の人事案件について	H30. 3. 22 (臨時)

第7号議案	市議会3月定例会への補正予算案の提出について（専決第2号）	H30.3.26 (定例会)
第8号議案	舞鶴市立小学校及び中学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則改正について	
第9号議案	舞鶴市教育委員会基本規則の一部を改正する規則制定について	
第10号議案	学校教育指導主事の設置等に関する規則の一部を改正する規則制定について	
第11号議案	舞鶴市図書館協議会委員の委嘱について	
第12号議案	平成30年度学校教育の重点について	
第13号議案	舞鶴市立中学校いじめ事象について	H30.3.26 (臨時)